

## 練習問題の解答

### 第1章

1次のような表を作って、項目別に比べてみましょう。

項目	人間のことば	動物のコミュニケーション
ものとの関係	恣意的	密接につながる
指示性	ある	ない
創造性	ある	ない
学習性	ある	ない(ある? 鳥に方言? ホタルに種による違い?)
置換性	ある	ない
二重性	ある	ない

動物の「学習性」について、もし鳥に方言があるとしたら、親鳥が子に方言を学習により伝達したことになります(O'Grady et al. 2005:565-566 参照)。また、ホタルのオスの明滅のパターンが種によって決まっているという報告もあります(Lloyd 1966 参照)。とすれば、ホタルの親が子に明滅のしかたを教えているのかもしれない。

さて、「1 ことばとは何か」で、人間のことばの特徴を上記の六つにするに当たり、まず参考にしたのは Hockett (1963:7-11)です。Hockett は、動物のコミュニケーションと比べた人間のことばの特徴(計画特徴(design features)といいます)として、全部で 16 もの項目を挙げています。16 は少し多すぎるので、次に Aitchison(1999:14-17)を見ると、その半分の八つに絞られています。それは、「音(声)の使用」「恣意性」「学習性」「二重性」「置換性」「創造性」「パターン性」「構造依存性」です。さらに Yule(2006: 8-12)は、「意図的伝達性」「置換性」「恣意性」「生産性」「文化伝達性」「二重性」の六つに絞っています。さてここで、Aitchison と Yule に共通しているのは、まず「恣意性」「二重性」「置換性」です。さらに、Aitchison の「学習性」と Yule の「文化伝達性」は、生まれてから習い伝えるという点で共通しているので「学習性」とし、Aitchison の「創造性」と Yule 「生産性」は、新たに作り上げるという点で共通しているので「創造性」としました。これで、「恣意性」「二重性」「置換性」「学習性」「創造性」の五つが確定しました。

私は、これに「指示性」を加えて六つとしました。この「指示性」は Hockett の挙げた 16 項目の中の「意味性(semanticity)」に対応します。ことばが意味を持つとは、ことばが何ものかを指し示すということだからです。ソシュール(ソシュール:95-97)の記号論においては、記号は能記と所記からなります。能記は指すもの、所記は指されるもののことです。ことばも記号の一つで、たとえば、「木」ということばの能記は[ki]という音、それによって指される所記は実物の「木」です。この実物の「木」が、「木」ということばの持つ意味になる、つまり「木」ということばは、実物の木を指し示す「指示性」という機能を持っているといえます。ただし、具体的に指すことのできない抽象的なことばの内容については、「指示する」よりも「表示する」という語のほうが適切であるという議論があります(Ishibashi et al eds: 514 ページ Meaning の項)。しかしここでは、たとえば「考える」と

ということばは「あれこれ心を働かせる」という内容を指し示すというように、「指示性」という術語を具体的なものも抽象的内容も指して使うこととします。

- 2 ①言語的信号は右耳でよく聞こえたという実験から(右耳と左脳がつながっている)。
- ②分離脳を持つ患者による実験で、右手でさわったり、右視野で見たものの名前を言ったり、右手で書いたりすることがよくできたから。
- ③失語症患者の損傷箇所(ブローカ領野、ウェルニッケ領野)が左脳にあったから。
- ④PET(陽電子断層撮影法)により、言語活動をしたときに血液が流れる箇所が左脳だったから。

「2 ことばは脳のどこにあるのか」では、右脳と左脳の機能を明確に区別しましたが、右脳と左脳は脳梁によってつながっていて、「絶えず連携をとりながら機能し」(高島 2006: 30) ています。また、「右脳でイメージしたことを左脳が言語化する」(山本 2005: 86)ので、実際にことばをしゃべったり書いたりするには、右脳の力が必要です。さらに、身振り手振り、顔の表情などによる非言語コミュニケーションも、竹内(2008: 79)が「言語が脳の左半球で理解されているのに対し、非言語は右半球で理解されます」と述べているように、右脳の働きによるものです。

- 3 古来日本人によって日本で使われ、現在は外国人によっても日本や外国で使われている言語。その系統は明らかではありません。

「4 日本語はどこから来たのか」でも、日本語の系統は明らかになっていないと述べました。しかし、2001 年度に国際日本文化研究センターで行われた共同研究では、日本語の系統をめぐってさまざまな魅力的な理論が提示されました。そのときの理論は『日本語系統論の現在』(2003 年、国際日本文化研究センター)にまとめられています。そのなかには、日本祖語と韓国祖語を比較したアレキサンダー・ボビンの考察(pp.15-38)、類型地理論を使って世界的にデータを分析した松本克己の考察(pp. 41-126)、比較形態論を使った峰岸真琴の考察(pp.343-353)などがあります。是非、ご参照ください。

- 4 どの言語にももともとからある一般的な語彙。自然を表す語(雨、晴れ、山など)、体の部分を表す語(手、足、口など)、基本的な動作・状態を表す語(走る、歩く、いるなど)、親族名称(父、母など)、人称代名詞(私、彼など)、数字など。

- 5 複数を表す二つの語尾が付く単語中に起こる母音は、それぞれ次の表のようになります。

語尾	単語中の母音		
-ler	i e	ö ü	前舌母音
-lar	ï a	o u	奥舌母音
	非円唇	円唇	

前舌母音 e を含む -ler は前舌母音と、後舌母音 a を含む -lar は奥舌母音と調和しています。この表から分かるように、トルコ語の八つの母音は、前舌/奥舌と円唇/非円唇の組み合わせによって前舌非円唇母音/i//e/、前舌円唇母音/ö//ü/、奥舌非円唇母音/ï//a/、奥舌円唇母音/o//u/ の四種類に分けることができます。

次にもう一つ、応用問題です。トルコ語で my(私の)を意味する四つの語尾 -im、-îm、-üm、-um は、前の母音とどのように対応(母音調和)していますか(この解答は本冊の最後にあります)。

トルコ語	英語	トルコ語	英語
el	hand	kus	bird
elim	my hand	kusum	my bird
ellerim	my hands	kuslarîm	my birds
göz	eye	zil	bell
gözüm	my eye	zilim	my bell
gözlerim	my eyes	zillerim	my bells
gül	rose	kol	arm
gülüm	my rose	kolum	my arm
güllerim	my roses	kollarîm	my arms
kız	girl	baş	head
kızîm	my girl	başîm	my head
kızlarîm	my girls	başlarîm	my heads

6 (似ている点) 語の頭の子音を比べると、「6」と「7」を表す語はすべて s で始まっているところが似ています。また、「9」を表す語もすべて n で始まっています。

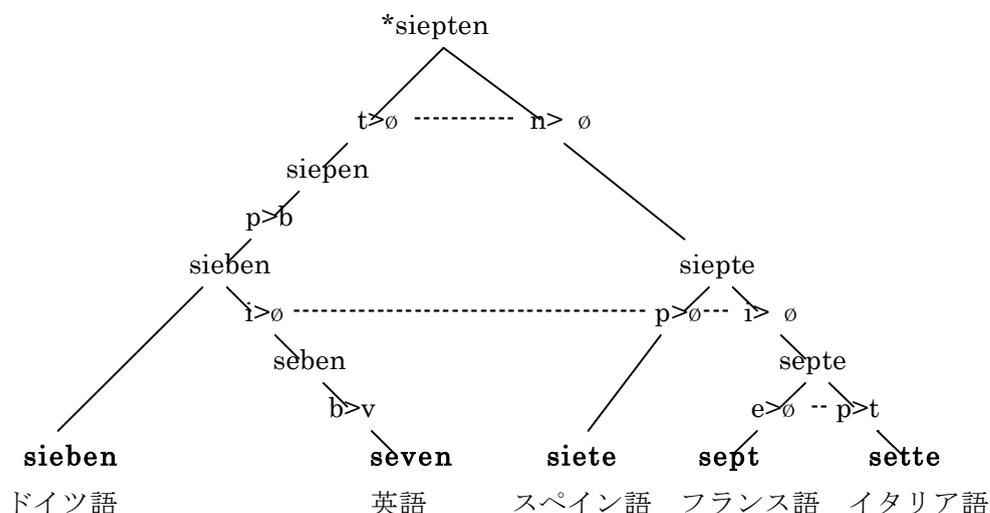
「2」と「10」を表す語は、英語が t、ドイツ語が z で始まるのに対し、スペイン語、フランス語、イタリア語はすべて d で始まっています。また、「3」を表す語も英語が th、ドイツ語が d で始まるのに対し、その他の三つの言語はみな t で始まっています。さらに、「1」を表す語は、英語、ドイツ語がひとつであるのに対し、その他の言語は男性形、女性形の二つがあります。したがって、英語・ドイツ語と、スペイン語・フランス語・イタリア語の二つのグループに分けることができます。

これら五つの言語を派生したもとの言語(祖語(proto-language))を再構(reconstruct)することによっても、これらの語が同じ語族に属することを証明することができます。たと

例えば、五つの言語の「7」を表す語の祖語としては\***siepten**を再構することができます(祖語には「\*」をつけます)。**\*siepten**からそれぞれの語(太字)にいたる過程を次に示します。

	祖語/ 変化	[tの喪失 -nの喪失]	pがbに	[iの喪失 pの喪失]	bがvに	[-eの喪失 pがtに]	
ドイツ語	* <b>siepten</b>	> <b>siepen</b>	-----	> <b>sieben</b>			
英語	* <b>siepten</b>	> <b>siepen</b>	-----	> <b>sieben</b>	> <b>seben</b>	-----	> <b>seven</b>
スペイン語	* <b>siepten</b>	-----	> <b>siepte</b>	適用せず	-----		> <b>siete</b>
フランス語	* <b>siepten</b>	-----	> <b>siepte</b>	適用せず	> <b>septe</b>	-----	適用せず > <b>sept</b> -----
イタリア語	* <b>siepten</b>	-----	> <b>siepte</b>	適用せず	> <b>septe</b>	-----	適用せず > <b>sette</b>

この過程を図式化してみましょう。



この図で、「∅」は、音が喪失するという意味で、たとえば「t > ∅」はtの喪失を表します。

まず、tの喪失かnの喪失のどちらかが五つの言語に起こります。英語とドイツ語ではtが喪失して**siepen**になり、スペイン語、フランス語、イタリア語では、nが喪失して**siepte**になります。

次に、英語とドイツ語で母音にはさまれたpがbに変わります(有声音による同化。第三章の6.4を参照)。ドイツ語はこの**sieben**で完了です。一方、スペイン語、フランス語、イタリア語の**siepte**では、tが残っているので、この変化は起こりません。

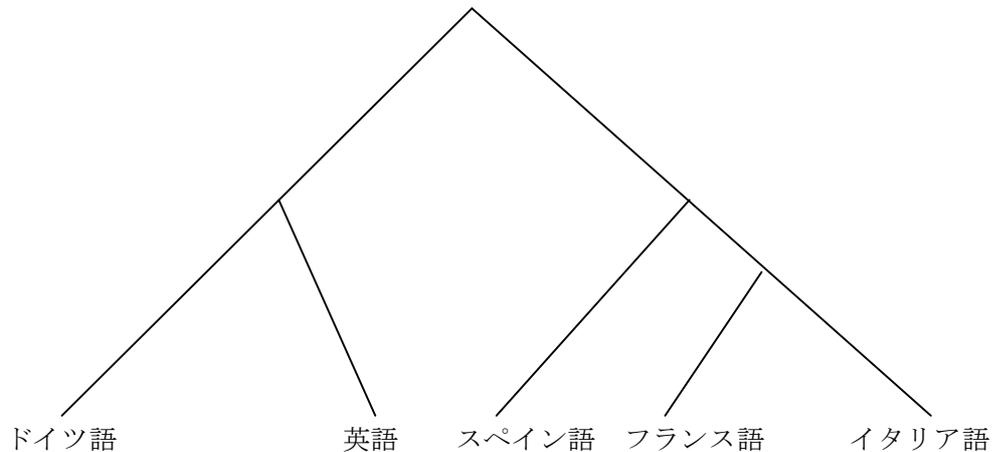
続いて、iの喪失かpの喪失のどちらかが英語、スペイン語、フランス語、イタリア語の四つの言語に起こります。英語ではiが喪失して**seben**になり、さらにbがvに変わって**seven**で完了です。スペイン語ではpが喪失して**siete**で完了です。フランス語とイタリア語でもiが喪失して**septe**となります。

最後に、フランス語ではeが喪失して**sept**、イタリア語ではpがtに変わって**sette**になり、すべて完了です。イタリア語で**septe**のpがtになるのは、うしろのtによる逆行同化です(第三章の6.4を参照)。

この過程は、インド・ヨーロッパ語族に属する五つの言語の歴史の変遷が次の図のよう

になることを示します。

インド・ヨーロッパ祖語



このような図は、ある語族に属する言語相互の系統を示すので**系統樹(family tree)**といいます。この図は、インド・ヨーロッパ語族の言語が、まずドイツ語・英語のグループとスペイン語・フランス語・イタリア語のグループの二つに分けられることを示します。さらに、あとの三つの言語の中では、フランス語とイタリア語が比較的近い関係にあることも示しています。

ここでは、「7」にあたる祖語として\***siepten** を再構し、そこから五つの言語の現在の形を導きました。これは、私の説です。いかがでしょうか。「7」以外の語についてもこのようなことができればいいと思います。みなさんも考えてみてください。

7 ラ抜きことばには「食べれる」「見れる」などがあります。「食べられる」「見られる」の「ら」が落ちて「食べれる」「見れる」になったのは、「られ」とラ行を二つ続けるよりも「れ」だけの方が言いやすいから、という**音声学的理由**がまず考えられます。

次に、「魚が食べられる」というのは、「(人に)食べられる」という受身の意味と、「食べることができる」という可能の意味の二つの解釈ができてしまいます。「食べれる」を可能の意味とし「食べられる」を受身の意味とすれば、二つの区別が明確にできるという**意味論的理由**が考えられます。

最後に、ラ行五段活用の可能動詞形「走れる」「切れる」などの「れる」に形を似せるという**形態論的理由**が考えられます。つまり、「走る: 走れる = 食べる: X」という公式に当てはめて、「X = 食べれる」が導かれるわけです。このような思考過程を**類推(analogy)**といいます。なお、五段活用は、「歩ける」「書ける」などの可能動詞形がありますが、「食べる」「見る」などの一段活用は、国文法では、可能動詞形「食べれる」「見れる」がない、とされています。

この三つの理由づけは記述的立場によります。

## 第2章

- 1 [b] 有声両唇破裂音 [ts] 無声歯茎破擦音  
 [k] 無声軟口蓋破裂音 [ŋ] 軟口蓋鼻音  
 [z] 有声歯茎摩擦音 [tʃ] 無声歯茎硬口蓋破擦音
- 2 [e] 中開き前舌非円唇母音 [a] 大開き中舌非円唇母音  
 [o] 中開き奥舌円唇母音 [ɯ] 小開き奥舌円唇母音
- 3 実技(やってみてください)
- 4 アクセントの型の数 = 語の拍数+1
- 5 アクセント 単語のそれぞれの拍における音の高低。語と語を区別する機能がある。  
 イントネーション 文末における音の高低。表現意図(断定・疑問など)を表す機能がある。
- 6 実技(やってみてください)
- 7 ①響音度が低い母音、[i]と[ɯ](小開き母音)。  
 ②無声子音のあとにあるとき(無声子音と無声子音の間にあるとき)。  
 ③拍が低アクセントであるとき。  
 ②について。(16)のデータでは[desu]の[ɯ]のみが無声子音のあとにあり、その他の[i][u]はすべて無声子音の間にあります。無声子音の間にあるのはあとにもあるわけで、「無声子音のあとにあるとき」とすればすべての例に当てはまることになり、より一般的といえます。
- ③について。拍が高アクセントにあっても母音が無声化することがあります。たとえば、「司会(低高高)し(高)てください(高高高高低)」の「し[i]」に含まれる母音[i]は高アクセントにあっても無声化します。アクセントと母音の無声化が連動する例としては、「マスコミ(低低高高)」の「ス[su]」([ɯ]が無声化する)が挙げられます。これを「マスコミ(低高高高)」というアクセントで発音するとス[su]の母音[ɯ]は無声化しません。
- 8 ガ行音が語中、語尾に現れるとき。  
 本文では、たとえば、「ガラガラ」の二番目の「ガ」を語頭と考えて、鼻濁音化しない例外とはならないと説明しました。しかしそれでも、例外はあります。それは外来語です。たとえば、マダガスカルの「ガ」、ナイチンゲールの「ゲ」は語中にあっても鼻濁音になりません。「高等学校」の「がっこう」の「が」は「高等」+「学校」で語頭と考え、鼻濁音

にならないはずですが、鼻濁音で発音する人もいます。

### 第3章

- 1 音声 人間が調音器官を使って実際に発する音  
音韻 人間が頭の中に持っている抽象的な音の集まり

- 2 単音 音声の最小単位  
音素 音韻の最小単位

- 3 ミニマルペア(例) 導き出される音素

toru(取る)	koru(疑る)	soru(反る)	horu(掘る)	/t/、/k/、/s/、/h/
kaku(書く)	maku(蒔く)			/k/、/m/
pen(ペン)	ken(県)	nen(年)	zen(善)	/p/、/k/、/n/、/z/
bento:(弁当)	kento:(見当)			/b/、/k/
denki(電気)	tenki(天気)	genki(元気)		/d/、/t/、/g/
daku(抱く)	jaku(焼く)	raku(楽)	waku(沸く)	/d/、/j/、/r/、/w/
aru(有る)	iru(射る)	eru(得る)	oru(折る)	/a/、/i/、/e/、/o/、
ami(網)	umi(膿)			/a/、/u/

なお、これらの例はみなアクセントも同じ語です。たとえば、最後の **a**mi(網)と **u**mi(膿)は「が」をつけると下がる尾高型で(「網が」も「膿が」も低高低)で、ローマ字表記ではミニマルペアとなる **i**mi(意味)、**e**mi(笑み)、**o**mi(臣)は、みな頭高型(高低)なので、厳密にはミニマルペアではありません。denki(電気:高低低)と denki(伝記:低高高)は、ローマ字表記では区別が付きませんが、アクセントの違いではミニマルペアとなります。ここで、アクセントまでそろえなければいけないと説明しましたが、私の講義では、アクセントの異なる toru「取る(高低)」と moru「盛る(低高)」などのペアから音素/t/と/m/を導いても、許容範囲としました。

- 4 短母音 長母音  
beru(ベル) be:ru(ベール)  
toru(取る) to:ru(通る)  
toku(解く) to:ku(トーク) など

- 5 [ts]は音素/t/の異音(母音[u]の前で起こる)であり、[t]も音素/t/の異音(母音[i]の前で起こる)だから。

- 6 ①[-子音]、[+有声]、[+響音]  
②[+子音]、[-有声]、[-響音]、[-連続]



します。たとえば、「とほし(遠し)」ははじめ/to $\Phi$ osi/と発音されていました。しかし、平安時代中ごろには/towosi/と発音されるようになり、新たに「とをし」というかなづかいもできました。そこで、人々は「遠し」を「とほし」と書けばいいのか「とをし」と書けばいいのか迷ってしまい、かなづかいの統一が必要になりました。契沖は、もともとのかなづかいである「とほし」に統一しました。

- 5      A ヘボン式                      B 日本式
- ① **ashinaga ojisan**              **asinaga ozisan**
- ② **shichifukujin**                **sitihukuzin**
- ③ **fushigina shoonen**      **husigina syoonen**

③の「少年」の「しょう」は、長母音「:」を使って sho:, syo:と書くこともできます。shou, syou は一般的ではありません。

6 日本語は、草がなの時代から縦書きで、上から下につながるのが自然の流れです。現在でも、日本語で書かれた本は縦書きの場合が多いです。一方、英語は横書きで、左から右に書くのがならわしです。しかし、日本語で書かれた本でも、言語学など、横文字が頻繁に現れる場合、横書きで書かれる場合があります。本書も横文字の英語をよく使用しますので、横書きにしました。

なお、縦書き、横書きといった文字の方向性は、単なる読みやすさの問題ではなく、書く人の思想にかかわるといえる考え方もあります。石川(2003: 98)は、「一般論として、縦書きの場合には『歴史や社会とともにある自分』という形の文体が多く、一方、横書きでは、私は私といった、『私』を中心にした文章になる例が非常に多かった」という事実を指摘し、それは、「天からの重力を受け止め、その重さをたえず感受しながら、それに乗ったり、あるいはそれをもち応えながら書き進んでいく縦書きの文章と、天からの重力を無視して突っ切り、ひたすら走り抜けるように書いていけばいい横書きの違い」によるという興味深い議論を展開しています。

- 7 ①エレベーターガール      ②カンニング      ③お年玉      ④プール      ⑦ドアボーイ

## 第5章

- 1 ①A ②B ③B ④A ⑤B ⑥A

①の「おじいさん」と「祖父」は類義語で、和語と漢語の違いです。また、「おじいさん」は尊敬語で身内の祖父を敬って呼ぶ語です。一方「祖父」は、客観的に指して使われる語で、外部の人に対して自分の「おじいさん」を指しているときに使います。

②の「上り」と「下り」は対義語で、電車でいえば、共通点は水平移動、相違点は方向

で、東京を基準にして「上り」は東京への方向、「下り」は東京からの方向です。

③の「長い」と「短い」は対義語で、共通点は空間的に連続した線状的な量、相違点はその量の大小です。

④の「つかむ」と「つまむ」は類義語で、「つかむ」は手のひらで物をとらえること、「つまむ」は指で物をとらえることです。

⑤の「原告」と「被告」は、共通点は裁判の当事者、相違点は「訴える」か「訴えられる」かです。

⑥の「投げる」と「ほうる」は類義語で、どちらもボールや石を遠くに飛ばすことに使われます。

(1) ア ボールを投げる

イ ボールをほうる

「投げる」はこのほかに相撲や柔道などで人を倒すことにも使われますが、「ほうる」にはこの用法はありません。

(2) ア 上手投げ 背負い投げ

イ \*上手ほうり \*背負いほうり

「投げる」はまた、「(ものごとを)あきらめる」という意味にも転じますが、「ほうる」にはこの用法はありません。

(3) ア 勝負を投げる

イ \*勝負をほうる

「投げる」は(1)、(2)、(3)の用法があるのに対し、「ほうる」は(1)の用法しかないので、「投げる」の方が「ほうる」よりも用法が広いといえます。

## 2 ①A ②B ③B ④B

①の「ア 長い道」と「イ 長い話」の「長い」は多義語で、アは空間的量の多さ、イは時間的量の多さを示し、アの用法が比喩的にイに転じました。

②の「ア 登校」と「イ 投稿」は、異なる漢字が当てられていますので同音異義語です。

③の「ア 紙」と「イ 髪」も、異なる漢字が当てられていますので同音異義語です。

④の「ア 夜があける」は「明ける」、「イ 窓をあける」は「開ける」で、これらも異なる漢字が当てられますので同音異義語です。夜が明けると明るくなり、窓を開けると光が入り込んで明るくなるという点で、「明ける」と「開ける」はイメージが似ているかもしれませんが、「明ける」は自動詞、「(窓を)開ける」は他動詞ですから、この二つは文法的にも異なっています。

「見る」には、「観る」「視る」「診る」「看る」などさまざまな漢字が当てられます。しかし、これらはみな同音異義語扱いできるでしょうか。これらのうち、「見る」(目で見える)、「観る」(じっくり見る)、「視る」(目を凝らしてみる)は、「実際に何かを見る」という点で類似

している類義語です。辞書でも同じ項目に出てきます。「看る」(世話をする)と「診る」(症状を調べる)も、「見る」から比喩的に転じた語で、意味に関連があり、多くの辞書で、この五つの語は同じ項目に出てきます。この漢字による区別は、どのように「見る」のかという細かい意味の違いを示しているのです。「紙」と「髪」の同音異義の「異義」(全く異なる意味)とは違います。「見る」「観る」「視る」には「見」という漢字が共通している点も、類義語である根拠になるでしょう。

### 3 ①B ②C ③A

①で、「ア 花子は太郎の妻」であるならば、「イ 花子は結婚している」は真です。一方、「イ 花子は結婚している」ならば、「ア 花子は太郎の妻である」とは限りません。「A→B」は真で、「B→A」は真とは限らないので、含意です。

②で、「ア 一郎は一人っ子」であるならば、「イ 次郎は一郎の弟」である、は偽です。「A→B」が偽であるので、矛盾です。

③で、「ア 最寄りの駅まであと3キロで着きます」と「イ あと3キロで最寄りの駅に着きます」は同じことをいっていますので言い換えです。

### 4 ①意味特徴 「±人間」・「±教える」(「-教える」=「教わる」)

先生	生徒
+人間	+人間
+教える	-教える

「先生」と「生徒」は、「+人間」が共通しながら、「±教える」が反対なので対義語です。

### ②意味特徴 「±人間」・「±男性」・「±親族」

おじいさん	おばあさん
+人間	+人間
+男性	-男性
+親族	+親族

「おじいさん」と「おばあさん」は、「+人間」と「+親族」が共通しながら、「±男性」が反対なので対義語です。「親族」は親族名称(kinship terms)で、親族関係を表す語です。

私の講義では、二つに共通する意味特徴として「±年齢」(「+年齢」=「年寄り」、「-年齢」=「若い」)を提示した人もいます。よい着眼点です。しかし、「若者」と「赤ちゃん」はどちらも「-年齢」となり、区別できません。意味特徴は場当たりのでなく、「+」か「-」が他のすべての語にも当てはまる必要があります。

### 5 ①外延 東京

内包 人口が多い。ビルがたくさん立ち並ぶ。政治・文化の中心、など。

②外延 陸上・水泳・野球・テニス・サッカー・馬術、など。

内包 プロとアマがいる。競い合う。からだを鍛える。など。

6 ①『空間』→『時間』 「あしびきの」は「山」にかかる枕詞。「山鳥の尾の垂れ下がった尾が長いように、とても長い夜を一人で過ごすのかな」の意。山鳥の尾が長いのは上から下への空間的量で、長い夜の「長い」は時間的量を表します。

私の講義では、「山鳥の尾」を『もの』に属する概念として、『もの』→『時間』と答えた人が多かったです。しかし、『もの』としての「山鳥の尾」は『時間』の概念とは結びつきません。

②『物理的』→『心理的』 「燃ゆる思ひ」は、「燃える火のように燃える思い」。「燃える火」は物理的ようす、「燃えるような思い」は心理的ようすを表します。歴史的かなづかい「思ひ」の「ひ」は「火」との掛詞です。

③『物理的』→『心理的』 「朝髪の思ひ乱れて」は、「朝起きたときの髪が乱れているように思いが乱れて」の意。髪が乱れているようすは物理的、乱れている思いは心理的のです。

## 第6章

1 ①関係の格言。子供は「ごはん」のことを聞いたのに、母は「勉強」のことを言いました。「ごはん」と「勉強」は関係がないので、関係の格言「話者は関係のあることを言わなければならない」に反しています。母は、子供が勉強してからご飯を食べさせようと思っています。

②量の格言。子供は「ごはん」のおかずのことを聞いたのに、母は「秘密」と答えました。母は子供に晩ごはんの情報を全く提供していないので、量の格言「話者は情報をできるだけ多く知らせなければならない」に反しています。

③質の格言。子供が遅く起きてきたのに、母は「早起き」と言いました。これは真実に反していますので、質の格言「話者は真実を伝えなければならない」に反しています。遅く起きた子供に対する皮肉です。

④態度の格言。母は「あれ」としか言わないので、「あれ」が何を指すのかわかりません。明確性に欠けますので、態度の格言「話者は明確に言わなければならない」に反しています。

私の講義で、同時に二つの格言に反する例はあるのかという質問がありました。とてもよい質問です。たとえば、本文の(5)の例では、「今日の料理はA子がつくっているよ」に対して、鈴木さんが「今日は胃腸薬を用意したほうがいいな」と言っています。この鈴木さん

の発言は、料理の話ではないので関係の格言に反しているという解釈もできますし、「料理が上手でない」と明確に言わない点では態度の格言に反しているという解釈もできます。

- 2
- ①「おめでとう」は賛美の行為ですので、(e)表現的です。
  - ②「やめなさい」は禁止の行為ですので、(b)指図的です。
  - ③「娘の結婚」を告知していますので、(a)叙述的です。
  - ④「バプテスマを授ける」は洗礼の行為ですので、(f)宣言的です。
  - ⑤「だれ?」は聞き手に情報を求める行為ですので、(c)質問です。
  - ⑥「力になりましょう」は申し出の行為ですので、(d)専心的です。
  - ⑦「誓う」は誓約の行為ですので、(d)専心的です。
  - ⑧「してはいけません」は禁止の行為ですので、(b)指図的です。
  - ⑨「何時ですか」は聞き手に情報を求める行為ですので、(c)質問です。
  - ⑩「契約に同意します」は約束の行為ですので、(d)専心的です。

3 ①PTA: パチンコ・タバコ・アルコール

1990年代の若者ことばです(「流行語(若者ことば)」より)。

②FMG: Father の Money を Get する

2002年にできた若者ことばです(「若者用語の小辞典」より)。

③VSOP: very special one pattern

1970年代の若者ことばです(「流行語(若者ことば)」より)。

④レコーディングは「音入れ」=「おトイレ」より。「トイレに行ってきます」

2003年にできた若者ことばです(「若者用語の小辞典」より)。

4 Aさんは、Bさんと話がしたいために、「時間を貸してくれ」と言ったのですが、Bさんは「返してくれるなら」と言いました。「時間を貸す」は「物を貸す」からの比喩表現ですが、Bさんはわざと文字どおり時間を「物」に解釈し、「返してくれるなら」と言いました。AさんとBさんが親しい間柄であれば、BさんがAさんに冗談で返したと解釈できますが、そうでなければ、Bさんは、Aさんと話がしたくなかったとも考えられます。

5(例)「まことに申し訳ございませんが、こちらは禁煙になっておりますので、おタバコはご遠慮いただけませんか。」

ネガティブフェイスを保つ方法を三つ使いました。「まことに申し訳ございませんが」は④の「謝る」方法です。さらに、「タバコを吸う」(する)を「禁煙になる」(なる)に置き換えています。これは、⑤の「要求の非人称化」です。また、「ご遠慮いただきます」を「ご遠慮いただけませんか」と疑問文にしています。これは①の「疑問文」の方法です。

## 第7章

- 1 ①埋め込み文 [テニスをしている]人は田中さんだ。  
 ②単文 空は(主語)青い(述語)  
 ③擬似並列文 雨が降っているので(S2)→旅行を延期した(S1)  
 ④並列文 スイカは緑色で⇔パイナップルは黄色だ

- 2 ①イ ②ウ ③ア

- 3 ①エ ②ウ ③ア ④イ

- 4 ①英語の/勉強が/だんだん/わかってきた

②公園を/走っている/人は/部長の/田中さんです

①の「わかってきた」は、さらに「わかって」と「きた」に分けるという方法もあります。しかし、ここでの「きた」は、ひらがなで書き、人が「来た」という実質的な意味を持たないので、「わかってきた」で一文節としました。本文(8)の「住んでいました」も同様に一文節としました。

- 5 ①動詞 ②形容詞 ③名詞 ④助詞 ⑤助動詞  
 ⑥形容動詞 ⑦代名詞 ⑧接尾辞 ⑨接続詞 ⑩接頭辞

- 6 ①(カ行)五段活用 ②(バ行)下一段活用 ③カ行変格活用 ④(カ行)五段活用  
 ⑤(カ行)上一段活用

- 7 ① 水泳が—  
 とても—好きです

- ② 太郎は—  
 きのう—  
 公園を—走った

- ③ 青く  
 +  
 澄んだ→空の→もとで—  
 1時間—遊んだ

- ④ もし—  
 私が—鳥だったら S2

↓

空を——とべるのに S1

## 第 8 章

1 ①u 動詞 ②ru 動詞 ③不規則動詞 ④u 動詞 ⑤ru 動詞

2 ①買う 会う 立つ 勝つ 走る など  
 ②読む 編む 飛ぶ 遊ぶ 死ぬ など  
 ③書く 歩く 浮く 急ぐ はしゃぐ など

3 イ形容詞 白い 赤い 青い 浅い 深い など  
 ナ形容詞 静かな にぎやかな 元気な きれいな はなやかな など

4 イ形容詞は名詞にかかる形がイで終わり、ナ形容詞はナで終わります。「\*きれい人」ではなく、「きれいな人」と言えるので「きれい」はナ形容詞です。

5 違います。「雨にふられた」は「降られた」、「彼にふられた」は「振られた」と書き、別の語だからです。どちらも**受身(受動態)**ですが、「彼にふられた」には**能動態**「彼が私を振った」が対応しますが、「雨にふられた」には対応する能動態がありません。「\*雨が私を降った」とは言えませんね。本文でも説明したように、「彼に振られた」など、対応する能動態がある受身を**直接受身**、「雨に降られた」など、対応する能動態がない受身を**間接受身**といいます。直接受身では、主語が関係者によって直接影響をこうむりますが、間接受身では、直接の関係者が存在せず、主語は間接的に影響をこうむります。間接受身では、みな主語が何らかの迷惑をこうむりますので、**迷惑受身**とも言います。

6 赤[aka]、青[ao]、[kiiro]は、最後が[a]、[o]で終わるのに対し、緑[midori]、紫[murasaki]は最後が[i]で終わっています。[i]のあとにもう一つ、形容詞を作る語尾「い」(i)をつけると「緑い」[midori:]、「紫い」[murasaki:]のように最後の母音[i]を伸ばして発音することになります。この発音が嫌われるためだと考えられます。ほかにも、橙[daidai]や紅[beni]も[i]で終わるので「橙い」「紅い」とは言いません。

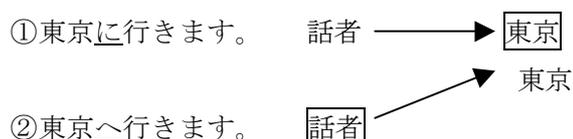
7 1986 年に内閣告示により制定された「現代仮名遣い」によると、オ列の長音を表記する場合は、オ列の仮名に「う」を添える、という原則があります。その原則に則って、「王子」は「おうじ」と表記します。「東京」や「神戸」を「とうきょう」「こうべ」と表記するのも同じ原則によります。一方、「遠い」「氷」「十」などは、同じオ列の長音でも「とおい」「こおり」「とお」と表記します。これらは歴史的仮名遣いでは「とほし」「こほり」「とを」と書かれました。このように、オ列の長音で発音する場合でも、歴史的仮名遣いで「ほ」と「を」に対応する場合は「お」と表記します。

8 「全然」はもともと下に打ち消しの「ない」を伴う副詞でした。したがって、「全然退屈じゃない」とか「全然構わない」というのが正式の言い方です。しかし、「退屈じゃない」のは「おもしろい」ことだし、「構わない」のは「平気」なことから、「全然おもしろい」とか「全然平気だ」という言い方ができました。正式な言い方よりも短くて言いやすいですね。いわば、省エネの言い方といえます。ラ抜きことばの「食べれる」「見れる」も「食べられる」「見れる」から「ら」を取った省エネの言い方といえるでしょう。

9 感謝する語は英語では Thank you、中国語では「謝謝」と、ふつうは現在形で表されます。日本語のように「ありがとうございます」(現在形)と「ありがとうございました」(過去形)の二つがある言語はないだろうと思います。二つの形があれば、使い方も違うと考えるのが自然です。

「ありがとうございます」はこれから相手がしてくれることに対する感謝を、「ありがとうございました」は相手がしてくれたことに対する感謝を表すのが基本です。たとえば、駅まで車で送ろうという部長に対して、社員は「どうもありがとうございます。」と言って部長の車に乗ります。車で送られるのはこれからのことだからです。しかし、部長に送ってもらったあと、感謝するときは「きょうはお送りいただき、どうもありがとうございました。」といえます。車で送るという行為がすでに終わったからです。

10 「に」は帰着点に、「へ」は方向性に焦点があります。図で表すと以下のようなになります。



①で矢印の先が「東京」に接し、東京が四角で囲まれているのは、話者の出発点よりも帰着する東京に焦点があることを示しています。一方②で「話者」が四角で囲まれ、そこから「東京」に矢印が伸びているのは、話者の出発点を基準とした「東京」への方向性を示しています。

11 この二つの文が現れる文脈を考えてみましょう。

(1) 先生: 「あなたは鈴木さんですね。わかりました。では次、あなたは?」

田中(学生): 「はい、私は田中です。」

(2) 先生: 「皆さんの中で、どなたが田中さんですか。」

田中(学生): 「はい、私が田中です。」

(1)では、先生が「あなたは?」と聞いたのに対し、田中さんが「私は」と答え、先生は「私」を見ているので、先生にとって「私」の存在が前提になっている、つまり「私」は旧情

報といえます。一方「田中です」は、先生にとって初めて聞く新情報です。

一方(2)では、クラスにたくさん学生がいる中で、田中さんが「私が」と初めて名乗り出したのですから、「私」は先生にとって新情報です。一方、先生の質問の中に「どなたが田中さんですか」とすでに「田中さん」が出てきていますので、先生にとって「私が田中です」の「田中」は旧情報です。まとめると次のようになります。

(1) 私 は 田中です。

旧情報 新情報

(2) 私 が 田中です。

新情報 旧情報

このように、「は」は旧情報を、「が」は新情報を導入する助詞です。

次に、この文脈に現れる「は」と「が」の種類を久野(1973:27-28)をもとに考えてみましょう。「は」には、①「話題」を表す場合と、②「対照」を表す場合があります。

①きょうはいい天気です。(話題)

②きょうはいい天気ですが、明日はどうでしょうか。(対照)

①の「は」は「きょうについていえば」と「きょう」を話題として取り上げる役目を果たしています。②の二つの「は」は「きょう」と「明日」を対照させる役目を果たしています。(1)の「は」は「私についていえば」というように「私」を取り上げる「話題」の「は」です。

「が」には、①中立叙述を表す場合と、②総記を表す場合があります。

①太郎が来ました。(中立叙述)

②クラス委員には鈴木さんが適任です。(総記)

①の「が」は、できごとを中立的に描写する中立叙述の「が」です。②の「が」は、クラスの学生をすべて取り上げて(総記の「が」。「総記」とは「<sup>すべ</sup>て<sup>しる</sup>記すこと」です)、その中で鈴木さんが適任だといっていますので「総記」の「が」です。(2)の「が」も、クラスの中の学生を取り上げて、その中で「私が田中です」と言っていますので、総記の「が」です。

12 「カレシ」「ギター」はもともと頭が高い「高低低」というアクセントでした。ところが最近になって「低高高」という平板型のアクセントが若者の使う若者ことばとして定着してきました。しかし、すべての語が平板化するわけではありません。音楽通は「ギター」「ドラム」「ベース」を平板化し、コンピュータ通は「ディスク」「ユーザー」を平板化します。そのような平板型アクセントの使い手は仲間である、という意識が若者の中にあって、アクセントの平板化が進んでいます。これは、「～みたく(～のように)」「なにげに(なにげなく)」と同じく、新方言としてとらえることができます。

13 確かに、過去においてアメリカ人だったということは、今は日本語ペラペラの日本人、

ということになってしまうかもしれません。これは、相手に面と向かって「何々人」と聞くことが失礼に当たるという意識からできた表現だと思われます。つまり、現在形の「ですよね」だと直接的ですので、過去形の「でしたよね」にして直接を避ける、つまり婉曲表現とみることができます。たとえば、「何々しなさい」よりも「何々していただけませんか」の方が婉曲的で丁寧です。婉曲表現は、このように丁寧につながりますから、日本人には好まれる表現と言えます。

最近よく使われる「よろしかったでしょうか」という表現も、「よろしいでしょうか」を過去形にして直接を避ける、丁寧な表現とみることができます。

## 第9章

### 1 ①B ②A ③B ④A ⑤B

#### 2 ①いただかれてください→お召し上がりください

「れ」は尊敬語ですが、「いただく」は謙譲語で、相手を低めてしまいます。

#### ②ソースをおかけして→ソースをおかけになって

「お～する」は謙譲語で、相手を低めてしまいます。

#### ③田中部長は→部長の田中は

田中部長の「部長」は尊敬語です。ここでは田中部長は受付にとって目上ですが身内ですので、部外者にいうときには敬語を取ります。

#### ④休業させていただきます → 休業いたします

「させていただく」は目の前にいる人から直に許可を得る表現ですが、この場合、目の前に客がいませんので、一方的に休業することを強要する響きを持ってしまうます。

#### ⑤いらっしゃられてください→いらっしゃってください

尊敬語動詞「いらっしゃる」に尊敬の助動詞「れ」がついて過剰敬語です。

### 3

学生 (ドアをノックする)

先生 どうぞ。

学生 (ドアをあけて)失礼します。(オフィスに入って) ○○先生、はじめまして。××と  
言います。どうぞよろしく{お願いいたします}。

申し

先生 こちらこそ、どうぞよろしく。どうぞおかけください。

学生 はい、どうもありがとう{ございます}。(すわる)

先生 ××さん、コーヒーでもいかがですか。

学生 はい、~~もら~~います。(先生、学生にコーヒーを入れて出す)  
いただき

学生 どうもありがとうございます。きょうは、先生に~~き~~きたいことがあって、ここに  
お伺いし/お聞きし  
来ました。

参り

先生 そうですか。積極的でいいですね。何でしょう。

学生 今日の講義の中で先生が~~使~~った「バックチャンネル」とはどういう意味でしょう  
か。 お使いになった

先生 ああ、あれは「あいづち」のことですよ。

学生 ああそうですか。わかりました。どうもありがとう{ございました}。また、わから  
ないことがあったら、先生にメールしても~~いい~~ですか。  
よろしいでしょう

先生 ええ、もちろんいいですよ。いつでも、何でも聞いてください。

学生 では、失礼~~しま~~す。

いたします

先生 きょうは来てくれてありがとう。また、いつでも来てくださいね。お待ちしております。

## 第10章

- 1 ① エ      ② イ      ③ ウ      ④ ア      ⑤ ア      ⑥ ウ  
⑦ イ      ⑧ エ      ⑨ イ      ⑩ ウ      ⑪ エ      ⑫ ア

⑪の「身分」は「身」が和語、「分」が漢語で混種語です。

- 2 ① 懐メロ = 懐かしの + メロディー  
② 鴨ねぎ = 鴨が + ねぎをしょってやってくる  
③ どたキャン = どたん場で + キャンセルする  
④ プロレス = プロフェッショナル + レスリング

- 3 ① サラリーマン  
+                    = ザラリーマン(ざらにいるサラリーマン)  
ざら

- ② かたつむり = こたつむり (こたつで丸くなっている人)  
+

こたつ

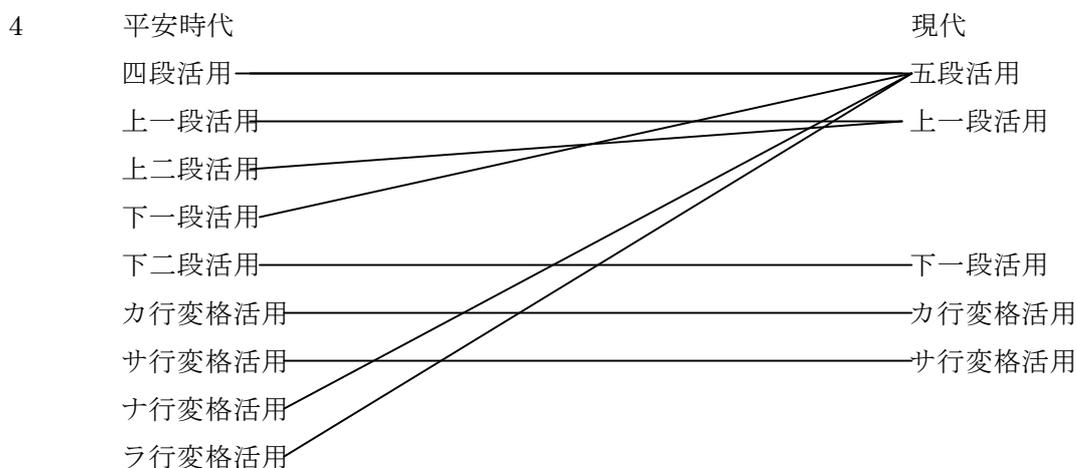
③鉄人 28号

+

= 別人 28号(いきなり別人のようになること)

別人

混交には、このほかに、「出たきり老人」、「フラレタリア」、「やにつきになる」などがあります(米川 1998:57 より)。これらも同様に、公式を考えてください(解答は本冊最後にあります)。



## 第 11 章

1 音声(1~4)、文法(5~12)、語彙(13~16)の三つに分類できます。東日本、近畿、筑前方言の類似度を測るために、それぞれの形式を記号にしてみましょう。東日本の 16 の形式をそれぞれ A とし、それに対応する近畿と筑前方言が似ていたら A、似ていなかったら B とし、さらに 3 方言がみな似ていなかったら A、B、C として、表を作ると以下ようになります。

項目	東日本	近畿	筑前
1	A	B	A
2	A	B	B
3	A	A	B
4	A	B	A
5	A	B	B
6	A	A	B
7	A	A	B
8	A	B	B

9	A	B	C
10	A	B	B
11	A	B	C
12	A	B	B
13	A	B	B
14	A	B	B
15	A	B	B
16	A	B	B

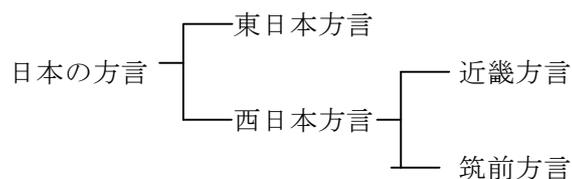
10の形容詞、12の打消の助動詞の項目は、アモーナルとカカンが近畿と筑前で共通していますので、**ABB**とします。16の「塩辛い」も、近畿のカライと筑前のカラカは東日本のシヨッパイと比べて互いに似ていますので、これも**ABB**とします。東日本と近畿、東日本と筑前の類似度はそれぞれAAの数を分子、全項目数16を分母として計算できます。近畿と筑前はBBの数が分子になります。次のような表にまとめます。

東日本			
3/16	近畿		
2/16	9/16	筑前	

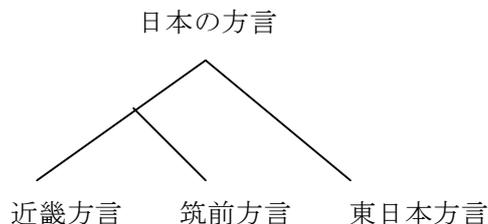
パーセントに直すと次のようになります。

東日本			
19%	近畿		
13%	56%	筑前	

近畿と筑前は半分以上の項目が似ているのに対し、東日本は近畿とも筑前ともあまり似ていないことがわかりました。したがって、日本の方言はまず東日本と西日本に分け、次に西日本を近畿と筑前に分けるのが順当です。



この関係は、次のような系統樹で示すこともできます。



2 ①せいせいする

②体裁

- ③まぶしい
- ④ボタン
- ⑤へそくり

## 第 12 章

1 練習してください。「たけたてかけたかったから」など、言いにくいところは反復練習しましょう。この「たけたてかけた」はなぜ言いにくいのでしょうか。それは、**take tate kake**にあります。この同じ母音[a][e]の繰り返しの中で、子音が[t][k]、[t][t]、[k][k]とめまぐるしく変わるのが言いにくさの理由です。「たけたてかけ」を言うときに、[t·k、t·t、k·k]の子音連続を意識するとよいでしょう。

2 愁(うれへ) 「秋」と「心」の組み合わせです。

3 ①ま抜け 「ま」が抜けています。

②さつまいも これは、戦前の学生が作った語です。羊羹は高いので、似た味で安いさつまいもで我慢したのでしょう。

③**Mother** の **Money** を **Get** する。それぞれの頭文字より。文字数に限りのある携帯電話の文字盤で会話するためにできた便利な若者語で、2003年にできました(「若者用語の小辞典」より)

4 ①あめ(雨) 「や」の「退き」の「あやめ」で、「あやめ」から「や」を「退けて」「あめ」となります。

②まつ(松) 「つまど」の「ま」より返る。「返る」とは、逆に返って読むことで、「つまど」を「ま」から返って読むと「まつ」となります。

③万葉集(まんようしゅう) 「桃」は「百(もも)」で、「桃(百)を百(ひゃく)」で「万」、「賜ふれ」は「ください」という意味で、「万をください」は「万に用がある」、つまり「万用」。「牛(うし)」を「返す」と「しう」になり、全部で「万用しう」となります。表向きの意味は、「桃を百個ください。そうすれば牛をお返ししましょう」。

5 ①「博士(はくし)」で 894 年。<sup>すがわらのみちざね</sup>菅原道真の進言により遣唐使が廃止された年。菅原道真は文章の博士だったので。

②「いざさ(133)らばさ(3)らば」で 1333 年。鎌倉幕府が滅亡した年。

③「以後よく(1549)」で 1549 年。フランシスコ・ザビエルがキリスト教を伝えた年。

④「一路(16)を裂く(39)」で 1639 年。徳川家光によって鎖国令が出された年。

⑤「いや(18)でござ(53)る」で1853年。ペリーが黒船で浦賀に到着した年。

以下に、俳句で覚える年号暗記の傑作を載せます。☆は、大手予備校の年号記憶法を参考にしました。

年号	できごと	暗記法
794年	平安京遷都	☆九重に <u>鳴くよ</u> (794)ホケキョウ 平安京
1167年	平清盛、太政大臣になる	☆大臣の 清盛さんは <u>いい胸</u> (1167)毛
1192年	源頼朝、鎌倉幕府を開く	☆頼朝さん <u>いい国</u> (1192)作れ 鎌倉に
1488年	加賀の一向一揆	☆百姓の <u>意志</u> はは(1488)つきり 一向一揆(宗教の自由)
1543年	種子島に鉄砲が伝わる	☆鉄砲を <u>以後予算</u> (1543)に入れ 作りましょう
1573年	織田信長、足利義昭を破る	敵(義昭)破り <u>以後渡</u> (1573)に乗る 信長さん
1588年	豊臣秀吉、刀狩を行う	☆農民に <u>以後刃</u> は(1588)いらぬ 刀狩
1590年	豊臣秀吉、全国統一	☆秀吉が <u>戦国</u> まる(1590)めて 全国統一
1615年	武家諸法度制定	☆大名よ <u>異論</u> (16) <u>以後</u> (15)なし 武家諸法度
1649年	慶安の御触書	農民に <u>疲労</u> (16) <u>辛苦</u> (49)の 御触書
1772年	田沼意次、老中になる	☆人々の <u>非難</u> (17) <u>何</u> (72)くそ 田沼さん
1871年	廃藩置県	☆これからは <u>藩</u> とは <u>いわない</u> (1871) 県という
1894年	日清戦争起きる	侵略は <u>違約</u> よ(1894)日本 日清戦争
1914年	第一次世界大戦が始まる	お互いに <u>引く意志</u> (1914)はなく 大戦はじまる
1915年	中国に二十一か条の要求	☆中国の <u>人食い</u> こ(1915)ろす二十一か条
1923年	関東大震災が起きる	大震災 犠牲になったは <u>幾人</u> さ(1923)
1964年	東京オリンピックが開かれる	日本国 <u>一苦労</u> し(1964)て 五輪開催
1978年	日中平和友好条約が結ばれる	日中の <u>人の苦難</u> は(1978) 実を結ぶ

## 問題の解答

## 第一章

5 複数語尾と同じように、表を作ると次のようになります。

語尾	直前の母音	母音の名称
-im	i e	前舌非円唇母音
-îm	ï a	奥舌非円唇母音
-üm	ö ü	前舌円唇母音
-um	o u	奥舌円唇母音

my を表す四つの語尾は、それぞれの語尾に含まれる母音と同種類の母音で調和しています。この場合、それぞれの語尾が、直前の母音と調和することに注意してください。

## 第十章

## 3 混交の公式

$$\begin{array}{l} \text{寝たきり} \boxed{\text{老人}} \\ + \\ \boxed{\text{出たきり}} \end{array} = \boxed{\text{出たきり老人}} (\text{老人ホームから出たきり帰ってこない老人})$$

$$\begin{array}{l} \text{プロレタ} \boxed{\text{リア}} \\ + \\ \boxed{\text{ふられた}} \end{array} = \boxed{\text{フラレタリア}} (\text{異性に振られてしまった人})$$

$$\begin{array}{l} \text{やみ} \boxed{\text{つきになる}} \\ + \\ \boxed{\text{やに}} \end{array} = \boxed{\text{やにつきになる}} (\text{タバコのやにが歯につくほどタバコがやめられなくなる})$$

## 参考文献

- Aitchison, Jean. 1999. *teach yourself linguistics*. Chicago: McGraw-Hill Companies.
- Hockett, Charles F. 1963. The Problems of universals in language. In Greenberg J H ed. *Universals of Language*. Cambridge, MA: MIT Press.
- Ishibashi Kotaro et al. eds. *Seibido's Dictionary of Linguistics*. 1973. Tokyo: Seibido.
- Lloyd, J.E. 1966. Studies on the flash communication system in *Photinus* fireflies. *Miscellaneous Publication of the Museum of Zoology, University of Michigan* No.130.
- O'Grady et al eds. *Contemporary Linguistics* Fifth Edition. 2005. Boston: St. Martins.
- Yule, George. 2006. *The Study of Language*. Third Edition. Cambridge: Cambridge University Press.
- アレキサンダー・ボビン/長田俊樹編 『日本語系統論の現在』 2003年 国際日本文化研究センター
- 石川九楊 「日本語を問いなおす」 2003年 NHK 人間講座 日本放送出版協会
- 沖森卓也編 『日本語史』 1989年 おうふう
- 久野 暁 『日本文法研究』 1973年 大修館書店
- ソシュール 『一般言語学講義』(小林英夫訳) 1940年 岩波書店
- 高島明彦監修 『面白いほどよくわかる脳のしくみ』 2006年 日本文芸社
- 竹内修二監修 『DVD で学ぶ人体 脳の不思議』 2008年 西東社
- 山本真樹監修 『面白いほどよくわかる人体のしくみ』 2005年 日本文芸社
- 米川明彦 『若者語を科学する』 1998年 明治書院

## 参考サイト

- 流行語(若者ことば) [http://www.komazawa-u.ac.jp/~hagi/ko\\_wakamono.html](http://www.komazawa-u.ac.jp/~hagi/ko_wakamono.html)
- 若者用語の小辞典 <http://www.tnk.gr.jp/young/word/index.asp>